



Conseil Mondial de la Famille Marianiste

Via Latina 22, 00179 Roma, Italia – [www.marianist.org](http://www.marianist.org)  
Tel (+39) 06 70 47 58 92 – FAX (+39) 06 7000 406

World Council of the Marianist Family  
Consejo Mundial de la Familia Marianista  
マリアニスト家族世界評議会

世界マリアニスト祈りの日

2019年10月13日

「アタコラ (ATACORA) の聖母」巡礼所

一致と良き勧めの聖母

( 西アフリカ：ベナン共和国 ナティティングー (Natitingou) )



巡礼所の入り口

## 「アタコラ (ATACORA) の聖母」巡礼所の歴史

カテキスタの養成のために任命されたアフリカ宣教会のミッシェル・ロスティス師が、その養成が行われることになる大きな集会場建設の完成に専念していたのは、1998年の9月でした。彼は次のような決意を手紙に認めています：“私の新しい任務が実を結ぶよう、私は「聖パウロ・センター」をおとめマリアと聖ヨゼフに委ねます。聖ヨゼフがこのセンターの保護者となってくださいますように！私が信仰とところの知識を育てるために真に有益であることだけを求めるよう、どうか聖ヨゼフが助けてくださいますように。”

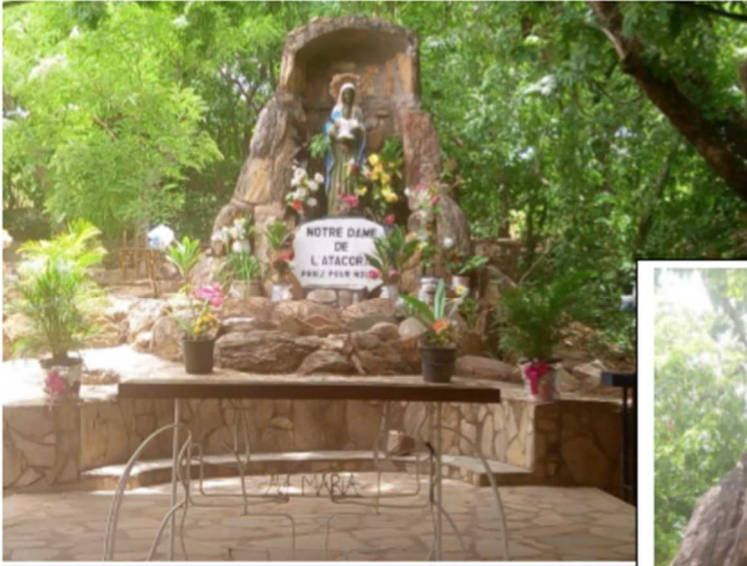
とはいえ、彼は、現在はマリア巡礼所になっているやぶ区域に隣接して生活することに苦闘していました。そこはほんのわずかな婦人たちが薪を切りに、また、ときどき子どもたちがキャッシュナツを取りにやってきました。ある夕方、彼が庭で晩課を唱えていたとき、鎌首をもたげた大きなコブラが彼を凝視していて、やがてやぶの中に消えていきました。直ちに、その区域の藪全体を刈り取る決定がなされました。多くの生徒たちは学校開始に伴う授業料の支払いのためにお金が必要だったので、彼らはボランティアとなり、瞬間に、藪を一時的にコントロール下に納めることができました。しかし、難題が横たわっていました。大きな岩があちこちに散在していたのです！ 岩を取り除く作業が続けられ、安らぎと黙想を求めたい人々のために、快適な環境が整えられました。

10月の司牧期の始めに、Pascal N’Koué 司教は彼にとってとても重要な優先事項であったおとめマリアを讃える巡礼センターを建設する場所を探すよう、全ての司祭に要請していましたが、マリア巡礼所を作るという発想はまだありませんでした。司教は全ての司祭と修道者に、場所を探すだけでなく、それが一日も早く日の目を見るよう祈るようにと求めました。

クリスマス休暇に、勇猛果敢な若者たちは藪の清掃活動を完成させましたが、ちょうどその頃、現在グロットと祭壇がある自然の低い丘が注目を集めるようになり、そこを巡礼の場所にしたかどうかという考えが芽生え始めました。特に他の場所がすでにふさわしいと見られていたので、ミッシェル・ロスティス師はこの考えを信じがたいと思った人々と話し合いました。このような次第で、1999年の始めごろ、彼は現場にすぐに来てきた司教に情報を提供しました。この件についてかなり考察したあと、環境は素晴らしいが、まわりの地域の条件はそれほどでもない、躊躇なくというわけでもないが、司教はミッシェル・ロスティス師に対する自分の信頼を告げ、ゴーサインを与えました。こうしてマリア巡礼所を作る仕事が始可能になりました。聖域となる小さな丘にある大きな石は全て機械を使わないで掘り出され、運び出され、適切な場所にセメントで固定される必要がありました。しかし、この仕事は単に生徒たちの力、勇気、喜びでなされたものではありません。周辺の村の女性たち、および若者たちも手を貸したのです。とはいえ、アカシアの木が植えられる前に、地ならしのために数時間、ブルドーザーの助けが必要でした。

2000年の大聖年が近づいていました。1999年1月には、1年後の1月22日にマリア巡礼所が実際に祝別式を迎えることができるとは、あるいはここに巡礼がなされることになろうとは誰も想像できませんでした。2000年1月22日、土曜日、Pascal N’Koué 司教は、「一致とよき勧めの母、アタコラの聖母」と名付けられたこのマリア巡礼所を祝別しました。司教はその説教の中で次のように喜びの声を挙げました：「長く待ち望んだ日がついに来ました。今日は土曜日、一週間のなかでキリスト者の一致のために祈る日、三位一体に捧げられた聖なる年である大聖年の平和の月、一月のおとめマリアに捧げられた土曜日です」。

祭壇の左側の大きな十字架は2000年の1月初めに設置されました。三種類のベルの組み鐘がこの巡礼所に寄付されました。大聖年の間に、最初の巡礼がいくつかなされました。若者たちの最初の大きな巡礼が2000年5月1日に行われました。マリア巡礼所の整備は、ミッシェル・ロスティス師の後継者たち、援助者たちの働き、および「小さな家庭のシスター」、トーゴの「ナザレの聖母のシスター」、フランスの「ビルヌーブの聖トマスのシスター」、ブラジルの「Obra de Maria」の男子奉獻者たちの貴重な支援によって継続されました。この巡礼所の最初のアニメーターチームのメンバーであった一人の「小さな家庭のシスター」は次のように物語っています：「中央祭壇は祈っている両手で支えられているように、また、祭壇は卵形で、全体はこの地方の石で作るように、と提案されていました。これは巡礼に参加し、父なる神に犠牲を捧げる祈る魂の姿勢なのです」。





## “緑の大聖堂”とも称される「アタコラ（ATACORA）の聖母」

この巡礼所を自分の教区に作ろうと望んだナティティンガーの Pascal N’Koué 司教は、このすばらしい巡礼の場所を以下のように紹介しています：

“1996 年以来、毎年、ドラムやトランペットを持たない多くの人々が、田舎ではあるが魅力には欠けていない貧しい場所に押しかけています。

私たちがそこにいるとき、何と畏れ多いほどの沈黙、何と平和な感覚、何という感謝に満ちあふれた場所なののでしょうか！ アタコラの全てが小規模な形でそこにあります：すなわち、青々と茂った草木、南側に緩やかに流れる小川の尽きることのない水系、難攻不落な岩があり、この岩は、人生を脆弱な砂の上ではなく、その堅固さの上に築くようにと私たちを招いています。これは、全てが一つとなる成功した総合体なのです。さらに、この場所は都市の発するあらゆる騒音や悪臭を放つ汚染とは無縁なのです。

あたかもこれは十分ではないかのように、神からのインスピレーションによって、これら自然の美に一人の婦人が住まれるグロットが人の手によって付け加えられました。この場所に超自然的な価値を与えているのは、この婦人の現存です。では、この婦人とは誰ですか。一人の母親です。どんな母親ですか。神であるイエスの母です。この神と人々の母は真にすべての人を惹きつける方です。子としての孝愛を込めて、私たちは“アタコラの聖母”と言います。彼女は、シンプルで美しく、にこやかでまばゆく耀き、崇高で完璧なブロンズ製の容貌をしています。私たちがここに巡礼するとき、彼女は人類の唯一の真の救い主である神の子を惜しみなく急いで提示してくださいませ。御子イエスもまたこの地域の特徴を示しています。その両眼は優しさに満ちあふれており、愛のことが絶えずイエスと母マリアの唇から流れ出ているようにみえます。

この聖母を訪問するためには、ナティティンガーを横切っている国際道路から 3 km (1.9 マイル) の道を行かなければなりません。しかし、この道路は、常に動乱の続く我が国のイメージのように、ひどい状態なので、果てしなく続く長い道のりに思えます。しかし、この困難な道を辿っていくと、ついに、あった！ ここだ！ この荘厳で品位のある緑の大聖堂に行き着くためには、いつもこのような犠牲を払う価値があります。科学者たちはエコロジカルな大聖堂について話すことでしょうが、ここは本当に木々の中にある貴重な真珠なのです。

お解りでしょう、この地域には小高い丘がないわけではありませんが、この場所は高いところにあるわけではありません。でしゃばりません。遠くからは見えないのです。ここは尊大でも、攻撃的で

も、野心的でもありません。そこに行き着く前に、私たちはこの場所を探さなければなりません。これら全てのことには理由があります。それは、この場所は、おとめマリアご自身のように、人々を歓迎し、親切で、控え目でありたいと望んでいる、ということです。またこの場所は、へりくだる罪人たちを自然に惹きつけ、回心へと招きます。

ここは典型的な聖所とは大変異なっています：すなわち、正門やステンドグラス、アーチ型天井やアーチ門はありませんし、金やダイヤモンドもありません。また、人が目から多くの情報を得てものごとを考えるこのイメージの時代にみられるような、視覚からくる気を散らすものもありません。さらに、ここは、昼夜を問わず、あらゆる方向に開かれており、全ての人にとって近づきやすい場所です。誰も管理人や香部屋係に部屋のカギを借りる必要はありません。このように、あらゆる信条の人々、あらゆるカテゴリーの人々、豊かな人々と貧しい人々、不幸な人々とビジネスマンたちが、全幅の信頼と尊敬を込めて、ある者は恵みを、ある者は慰めを、ある者は成功を、ある者は奇跡を、ある者は何らかの良いアドバイスを求めてやってきます。

無原罪の聖母、司祭たちの母、奉献者のモデル、そして私たち家族の女王であるマリアの祈りによってすでにいただいたあらゆる恵みを思い起こし、主に感謝を捧げましょう。また、彼女を通して私たちが受けるあらゆる神の助けにも感謝を捧げましょう。”

## 「アタコラの聖母」巡礼所への“感謝のことば”

### 「アタコラの聖母」前巡礼所長のことば

“私は大人数からなる巡礼団だけでなく、特に土曜日と日曜日にここに個別にやってくる巡礼者たちのことも記憶に残っています：すなわち、家族の女王の傍らで新たな考えを得るため、また自分自身をリフレッシュさせるためにやって来る家族、近づいている試験のために5月にマリアに懇願しにやって来るが、時には、試験がうまくいったことを感謝するためにここに戻ってくることを忘れていた若者たち（しかし、おとめマリアは彼らが感謝しに戻ってくることを期待してはいない）、黙想や生活の振り返りをする司祭たちのことです。体の癒やしは時として起こることではありますが、それよりもむしろ、ここに来る人々が求めているのは心の癒やし、疲れが軽減されること、落胆から立ち上がる力などであり、これこそが、あらゆる人に超えて母性的であるマリアの心に触れて人々が見いだすものなのです。この4年間、私は秘跡の拝受を準備している多くの洗礼志願者のグループや、恵みに触れた旅行者さえ見ました。すべての人がリラックスできる環境に感服しました。インフラは貧しいものですが、それでいいのです。主の母に祈るようと、初めからこの環境を整えてくださった神の御手の前には、人間の手は無に帰しています。教区の巡礼そのものは大規模なものとなり、現在は2日以上にわたっています。あらゆる言語や地方の言語で、またラテン語でさえも聖母マリアを讃美しています。たいまつ行列がハルマッタン (harmattan: 12月から2月までの乾期) の涼しい夜を照らします。疲れた魂、傷ついた心、弱った体の人に、私は次のようにお招きします：

「ここに来て、座り、グロットの前で午後の時間を過ごしてみなさい。リスたちが遊び、色彩豊かな鳥たちが歌い飛び交うこの緑豊かな環境に身を置いてみなさい。」

マリアは、地上のはかない美から天国の永遠で表現不可能な美しさへと私たちを導く天の門のように、そこに居られます。”



### 聖所の近くにある小神学校の神学生たちのことば

“マリア様の聖所のそば近くで生活できるとは、何という喜びでしょうか！ 何回も、私たちはアタコラの聖母巡礼所に様々な巡礼で参加しましたし、何回かは個人的に祈るために行きました。毎回、そしてそこを訪問する度毎に、私たちが魅了され再確認する先ず最初のことは、景色のすばらしさであり、その美は、その全く独特の気候・風土によってと同様、その緑色によって祈りへと誘います。私たちは本当に神学生の母であるマリア様に守られていると感じており、マリア様は神の意思に従って自分の子どもである神学生たちの将来の歩みに向けて良い助言を与えることなく彼らを帰すようなことはありません。そして私たちの最も大きな望みは、全てのキリスト者にアタコラの聖母、おとめマリアへの信心を拡げるのを見ることです。何故なら、私たちの司教様のことばを引用すると、「おとめマリアは私たちの心に重要な位置を占めなければなりません。私たちはマリアを経ることなくその子イエス様へ行くことはできません。そして、このマリアの愛を証言する最良の機会の一つが、もちろん、巡礼なのです。(巡礼に来ればマリア様の愛を体験できるのに)、何故、これほど多くの恵みを無駄にするのでしょうか？ マリア様のところに行きましょう、マリア様はその手に御子イエスを抱いて、アタコラの巡礼所で私たちを待っておられる！」からです。”



### イスラム教徒からキリスト信者になったある異教徒のことば

“ロベール (Robert) という名前をもらって生まれたのですが、私は異教徒のようでした。けれども、里子となった家族に合わせるためにイスラム教徒になる選択をしました。里子になった家族の中で一番年上の子どもとして、コーランの先生から、家族の祈りをリードする先唱者に指名されま

した。大学の勉強のためベナンの首都コトヌーに行くためにナティティンガーを離れたとき、私はあるカトリックの夫婦と出会い、彼らの子どもたちの指導のために雇われました。この家族はその信仰を分かちあってくれました。彼らはロザリオで黙想することを教えてくれました。私は、まだ芽生えつつあった私の信仰を堅固なものにするために、カトリックの妻を与えてください、としばしばおとめマリアに懇願しました。今、主における私の妻であるカトリックの女性と出会ったのは、その頃でした。私たちは、コトヌーで一緒に住んでいた私のイスラム教の従兄弟たちの脅しを避けるために、一緒になることを彼女と相談して決断しました。私たちは彼らの脅しに対抗する手段としてロザリオを唱えることを決め、絶えずおとめマリアの助けを懇願しました。ある朝、私はあるプロジェクトで働いている人から仕事の誘いを受けました；その人は6ヶ月の契約でナティティンガーに来ないか、と誘ってくれたのです。この最初の契約のお陰で、私たちは持参金を準備することができました。しかし、まだ結婚式が残っていました。私が別の6ヶ月契約の仕事の誘いを受けたのは、前と同じようにロザリオと一緒に唱えている間でした。このお金で私たちは結婚したのです。”

“私と妻はしばしばマリア様のことを、好んで「慈悲深い聖母、おとめマリア」と呼ぶのですが、マリア様は私たちの家庭の中心に居られます。彼女は私たちの小さな家族の母親です。妻と私は、マリア様に相談することなく大きな決定をしたことは一度もありません。同様に、これまでに手に入れることができたあらゆるものは、彼女の取りなしのお陰なのです。私たちのように、全ての家族は家庭の見える場所に自分たちのマリア像を飾り、朝晩、毎日、ロザリオの祈りをしたらいいと思います。”

## アタコラの聖母への祈り

聖なるおとめ、主のはしためであるアタコラの聖母よ、  
御子イエスを通して私たちを救う神の計画に

“ハイ”と応えられたあなたに感謝いたします。

私たちは、私たちの国ベナン、この国を構成する多様な人々、この国の男女、  
特に、私たちが住んでいるこの祝福され、輪のように丘に囲まれた土地を  
あなたに奉獻いたします。

あなたは、聖霊が降りイエスを宿されるやいなや、  
従姉妹エリザベットに奉仕するために、ユダヤの山地へと急がれました。

私たちを訪れ、私たちの家にとどまってください、  
そうすれば、最初の福音の宣教師たちがもたらした信仰の種が成長します。

アタコラの聖母よ、私たちは、一致と良き勧めの母として、あなたを崇めます。

母としてのあなたの優しさで、私たちをあなたの下に集めてください。

与えられ、受け取った愛と赦しによって、

私たちを御子のみ姿に形づくられる献身した弟子としてください。

福音をまだ知らない人々に、福音を恐れなく宣べ伝える者としてください。

神の栄光のために熱心に働くよう、また、私たちの地域の正義と平和のため、

および、社会的、知的、道徳的、霊的進歩のために心から働くよう

私たちをお助けください。

私たちが真に地の塩、世の光となりますように！

力強い家族の女王よ、私たちは懇願いたします、  
どうか、わたしたちの家族を見守り、  
特に、身を持ち崩す危険が差し迫っている人々をお守りください。  
どうか、両親が、神の協力者および模範的な教育者として、  
自分たちの責任を十分に引き受けるよう勇気づけてください。

幸いなるおとめよ、どうか私たちが常にあなたの御子のみ旨を行い、  
「この人が何か言いつけたら、その通りにしてください」という  
あなたご自身の勧めに素直に従う者となるよう、教えてください。  
どうか、私たちの体に力と健康を、心には清さと敬神の念をお与えください。  
どうか、試みのときに私たちを支えてください。  
そうすれば、私たちは常にあなたとの一致に留まり、  
いつもカトリック教会に忠実な者となるでしょう。

神の母、アタコラの聖母よ、  
私たちを祝福してください。  
私たちの教区を祝福してください。  
そして、私たちの国、ベナンを祝福してください、アーメン。

アタコラの聖母、私たちのためにお祈りください。